



# 緑っ子だより

校訓／教育目標  
かしこく やさしく たくましく

豊かな心とたくましさもち  
夢に向かって伸びる緑っ子の育成

宇土市立緑川小学校  
平成30年11月13日号  
文貴 谷口育聖

## みどりかわ教育の日 11月4日(日)

みどりかわ教育の日は今年で4回目。今回は、午前中にこれまでの学習の成果を披露する発表会とみどりの種の皆様による読み聞かせ。学校運営協議会委員の皆様をはじめ100人を超える保護者・地域の皆様の前で子どもたちは学習したこと、伝えたいことを精一杯表現することができました。午後は、地域の方々を講師としてお招きし、物づくり活動が行われました。1, 2年生は、い草を使ったペン立てづくり、3, 4年生は、八八窯の焼き物づくり、5, 6年は、絵手紙づくりでした。



5年生の発表

講師の先生の話聞く子どもたちの食い入るような目、制作途中の自分の作品に一喜一憂しながら取り組む態度、きっとお気に入りの作品ができあがったことでしょう。

ご覧になっていかがだったでしょうか？学習の成果を発表するというめあてをもち、頑張っている様子、あいさつや返事、服装などの礼儀、そして、そんな中から緑川に誇りを持つ子に育っている様子が見られたならば、この教育の日は大成功だったと思います。

また本校は、「開かれた学校づくり」を目指しております。これまでも緑川地区は、子どもたちを「地域で育てる」という意識が高く、学校に対し多大なご協力をいただいていたのですが、これからの時代、地域の人材を含めた資源が益々必要になってまいります。ぜひ、今後とも学校の教育活動にご参画いただきますようお願いいたします。



1, 2年のペン立てづくり

## 宇土市・美里町連合音楽会

11月9日(金)、宇土市民会館で標記音楽会が開催されました。本校は例年、3・4年生がこの音楽会に参加しています。今年は、3年生9名、4年生10名、合計19名が、「ウルトラマンメロディ」と「世界のやくそく」を演奏しました。

ほどよく緊張した子どもたち。舞台に立つと実に堂々とした態度で演奏することができました。



「世界のやくそく」合唱の様子

## 稲刈り 11月8日(木)

天候や田んぼのコンディションもよく、全校児童が稲刈り体験をすることができました。松本公民館長をはじめ老人会、学校運営協議会、PTA役員等多くの地域の方々にご協力いただきました。

収穫された籾は、乾燥し餅米として精米された後、12月2日(日)の餅つきに使われます。鎌の使い方が上手で、要領よく刈り取っていく児童が多いのには驚きました。



## 大収穫

## 芋掘り 11月13日(火)

順延になった今回も松本館長、田村さん、今村さん、松下さん、中山さん、中島さん、吉武さん、のご協力を得て見事なサツマイモを収穫することができました。子どもたちは、一生懸命に湿った土を払いのけ、大きなイモを引き抜いていました。子どもたちの様子を見て、今回も「地域で育てているな」と感じました。

持ち帰ったサツマイモ、感謝の気持ちと共においしくお召し上がりください。



## 「自己肯定感」を高める子育て① Daniel J.Siegel Tina Payne Bryson

この本は私たちが、子どもたちを幸せにしたい、精神的な強さや学力をつけさせたい、人との上手なつきあい方やしっかりとした自我を身に付けさせたい・・・とにかく生き甲斐のある幸せな人生を送れるようにしてあげるには何に集中して手助けをすればいいのかわ、「自己肯定感」とはどういうものかを説明しながら、子どものなかの4つの力をはぐくみ、生きていく上で重要なスキルを教える実践的な方法について書かれています。今回からシリーズで本書の要点や私の経験や思いを交えながらお伝えしようと思います。

「親の手助けがあれば、子どもの脳は、いくらでもよい方向に『変えられる』。そこで何より必要なのが「自己肯定感」で、なぜなら、そこから幸せの鍵となる4つの資質がつくられるから・・・」といえます。

子どもの人生に絶対必要な4つの資質を、

**キレイな力:**感情とふるまいのバランスをうまく取る能力

**立ち直る力:**生きていく上で避けられない問題や困難にぶつかっても、すばやく回復する能力

**自分の心を見る力:**自己を見つめ理解し、学んだことを生かしてよい判断をし、自己管理する能力

**共感する力:**他の人の考え方を理解してから、思いやりをもってそのときにふさわしい行動を取る能力

とし、子どもが自分らしく生きるために「自己肯定感」をはぐくむ子育てが必要だということで、まずは「プラス脳」と「マイナス脳」から説明しています。

わたしたちは人から厳しく叱責されたり否定されたりすると過剰な反応をしやすくなります。このときが「マイナス脳」で、「生存」と「自衛」にばかりに集中して、脳の神経系が、とっさに「闘争・逃走・硬直・失神反応」を起こし始めるため物事に柔軟に対応できなくなります。これは子どもだけではなく、大人にでも起こることです。「プラス脳」はその逆で、周りの人の話に耳を傾けて、きちんと判断し、物事を受け入れることができます。この受け入れる力と活発な人付き合いの回路があれば、自己肯定感が高まり、困難や新しい経験に対して向き合って乗り越え、学ぶための挑戦として見られるようになるといえます。

また、自己肯定感を育てる上で必要なのは、毎日の子どものやりとりだけだと言います。マイナス脳で世界と向き合う子どもは、自分の状況と感情に振り回されています。感情にとらわれて、うまく心を切り替えられず、それに対応する健全な方法を見つける代わりに、現状に不平を言ったり、攻撃的になったり、引こもったりするようになります。家でも学校でも似たようなことが起こっています。したがって、できるだけ子どもが自力でプラス脳に戻るためのツール(方法や道具など)を与えるといっています。

「自己肯定感」を育てることは「甘やかす」ことではない:子どもの言いなりになったり、困難な状況を救ったり、親の言いつけを機械的に聞く従順な子を育てたりすることではなく、自分がこれからどんな人間になっていくのか子どもに気づかせ、つながりと意義にあふれた人生を選ぶようにしてやるのが重要だとしています。また、プラス脳をもって自己肯定感を持ったからといって、マイナス脳がなくなったわけではなく、それは人生の目的でもなければ可能なことでもないといえます。学校では、親を教師と言い換えることができます。

プラス脳とは、脳の機能が統合した状態のこと:統合した脳の特徴は、①柔軟性②適応性③一貫性④活力⑤安定性があるといえます。脳は、いくつになっても経験に基づいて「変わり続ける」ことができ、子どもに対する親の習慣によって、子どもの脳を発達させることもあり、しばませることもあるといえます。

次回は、マイナス脳とプラス脳の構造と自己肯定感をたかめる「キレイな力」についてお伝えします。

## これからの行事・活動速報

### ●親子読書週間 11月10日(土)～11月16日(金)

親子で読書することにより、家庭での読書習慣を身につけ、読書への意識を高める目的で1週間行います。やり方は、「①親子で読書できる時間を決める ②テレビなどのメディアを消す ③それぞれに読書、または読み聞かせをする ④親子読書カードに感想を書く」です。

### ●午前半日授業 11月13日(火)宇土市学校人権研究会

11月21日(水)教科等研究会

11月30日(金)「子どもたちによるいじめ防止推進事業」研究発表会

半日授業が3日あります。13日は、国語や算数などの教科に分かれて授業を参観し意見交換をします。21日は、人権に関する授業を参観して意見を交流し緑川小の実践へつなげていきます。